

【追加説明資料】

社会資本整備総合交付金事業
一般国道168号 小平尾こびらおバイパス
奈良県（道路建設課）

H28.12.21

平成28年度 第2回 奈良県公共事業評価監視委員会

一般国道168号
こびらお
小平尾バイパス

平成28年12月

奈良県県土マネジメント部道路建設課

目 次

1. 前回の指摘事項
2. 事業の投資効果(残事業便益の修正)
3. 前回再評価時(平成23年度)との比較
4. 対応方針(まとめ)

1. 前回の指摘事項

- 部分供用を行っている事業における残事業の便益について。
- 前回評価時からの社会情勢・完了年次・総費用・便益がわかる資料。

2. 事業の投資効果（残事業便益の修正）

■費用便益分析マニュアル（平成20年11月・国土交通省 道路局 都市・地域整備局）p18において、『「残事業の投資効率性」の評価にあたっては、再評価時点までに発生した既投資分のコストや既発現便益を考慮せず、事業を継続した場合に追加的に必要となる事業費と追加的に発生する便益のみを対象として算出する。』と記載されている。

（2）再評価及び事後評価における費用便益分析

再評価に際して行う費用便益分析は、原則として、「事業全体の投資効率性」と「残事業の投資効率性」の両者による評価を実施する。

「残事業の投資効率性」の評価にあたっては、再評価時点までに発生した既投資分のコストや既発現便益を考慮せず、事業を継続した場合に追加的に必要となる事業費と追加的に発生する便益のみを対象として算出する。

再評価及び事後評価において、評価時点までの各年次の便益、費用は、物価変動分を除外するため、基準年次の実質価格に変換（デフレート）する。デフレーターには、GDP デフレーター（内閣府経済社会総合研究所により公表）を適用することとするが、公表されている最新のデータを用いるよう、十分に留意する。

※費用便益マニュアル 平成20年11月 国土交通省道路局 都市・地域整備局
P18~P19

2. 事業の投資効果(残事業便益の修正)

3) 事業の投資効果(小平尾バイパス)

小平尾バイパスは、部分供用を行っていないため、
残事業費の便益に変更はない。

◆事業全体

便益(B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益※1	費用便益比 (B/C)
	88.2億円	7.3億円	3.2億円	98.7億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	44.9億円	0.2億円		45.0億円	

(前回再評価時B/C=2.1)

■算出条件等

基準年	:平成28年度
検討期間	:50年間
現在価値算出のための 社会的割引率	:4%
交通量の推計時点	:平成42年度
推計に用いた資料	:平成17年度道路交通センサス
適用した費用便益分析	:平成20年11月版マニュアル
事業費	:45億円(現在価値)
維持管理費	:839千円/km
作成主体	:奈良県

◆残事業

便益(B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益※1	費用便益比 (B/C)
	88.2億円	7.3億円	3.2億円	98.7億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	
	29.2億円	0.2億円		29.4億円	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している。

3. 前回再評価時との比較(小平尾バイパス)

生駒市

- ・世帯数 44,484世帯(H22)→45,593世帯(H27) 1,109世帯(2.5%)増
- ・人口 118,113人(H22)→118,233人(H27) 120人(0.1%)増
- ・自動車保有台数 38,904台(H22)→38,388台(H26) 516台(1.3%)減

国道168号

- ・交通量 10,691台/12h(H22)→11,498台/12h(H27) 807台(7.5%)増

事業計画等

- ・事業進捗率 10%(H23)→28%(H28)
- ・用地進捗率 31%(H23)→55%(H28)
- ・事業費 約63億円(H23)→約51億円※(H28)
約12億円減(用地補償費の精査による減額)
- ・完了年次 平成30年度→平成30年台半ば

※今後用地買収・工事進捗により変更になる可能性がある。

費用便益比

- ・B/C 2.1(H23)→2.2(H28)

4. 対応方針(小平尾バイパス)

1. 社会情勢等の変化に関する視点

- 生駒市の人口および国道168号の交通量が増加している。

2. 事業の必要性等に関する視点(整備効果)

- 第二阪奈有料道路へのアクセス向上と南北方向の交通混雑の緩和および円滑かつ安定した交通を確保。
- 現道および生活道路の交通安全性の向上が期待される。
- 地域の活性化が期待される。
- 救急救命活動を支援する道路である。
- 費用便益費(B/C)は事業全体で2.2、残事業で3.4。

3. 事業進捗の見込みの視点

- 現在、用地買収を実施中。事業進捗について大きな問題はない。
- 引き続き事業を推進し、平成30年代半ばの事業完了を目指す。

一般国道168号小平尾バイパスは、社会情勢等の変化、事業の必要性および事業の進捗の見込みから継続が妥当と判断できる。
引き続き事業を推進し、早期の事業完了を目指すことが適切である。

事業継続